**校長　伊藤　慎司**

**平成31年度　学校経営計画及び学校評価**

１　めざす学校像

|  |
| --- |
| 確かな学力と意欲・志、さらには、高いｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ能力に裏打ちされた豊かな「人間力」を持ち、社会に貢献できる生徒を育成する学校。地域に根付いた地域に愛される学校をめざす。  １．それぞれの学力向上（「わかる、楽しい、規律ある授業」の展開、基礎的・基本的学力の定着、進学に向けた学力の向上）  ２．ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ能力の向上  ３．地域連携の推進 |

２　中期的目標

|  |
| --- |
| １　学力の向上（学ぼうとする力の育成）  （１）本校生徒にとって『授業のﾕﾆﾊﾞｰｻﾙﾃﾞｻﾞｲﾝ化（以下UD授業）』『楽しい授業』『規律ある授業』が行えるように、教員の授業力を向上させる。  ア　本校勤務年数が少ない教員への日常業務を通した指導法の継承(OJT)が盛んに行われるような職場環境づくりを行う。  イ　教員相互の授業見学や研究授業を積極的に行う。  ウ　ICTを活用し、授業改善と業務軽減を行う。すべての教員がﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾀｰを活用できるようにする。  ※　他校での研究授業への参加と、各教科での研究授業の実施（各教科2年間で1回）  ※　生徒による学校教育自己診断において「授業が分かりやすい」という項目に対する肯定的な割合（強く思う、ややそう思う）を80％以上にし、維持していく。（H30年度65%）  ※　授業アンケート「授業内容に興味関心を持つことができた」の項目を3.5ポイントに向上させ、維持していく。（H30 :3.35）  （２）生徒の学習習慣を確立させることを通して、学習意欲を向上させる。  　　　ア　生徒が放課後に校内で勉強できる場（自習室・図書室）を整備し、教員が生徒の個別指導を行える体制をつくる。  　　　※　日々の放課後に自習室・図書館を利用して学習する生徒がいる状態にする。  イ　読書習慣の確立。  　　　ウ　遅刻防止（前年比20％減をめざす）  　　　エ　ICTを活用し年度末の成績不振（欠席30日以下の生徒）による留年者０をめざす。  （３）生徒一人ひとりの進路目標に合った学力（それぞれの学力）を育成する。  ア　義務教育段階の学力修得を目的とした茨田検定（振返り学習）・「基礎教養講座」や、習熟度別授業、補習などの内容を充実させる。  イ　発展・応用的学力の習得をめざす授業内容の充実と、授業以外の講習などを積極的に実施する。  ウ　キャリア教育の実践として生徒の進路に応じた講座を充実させ、進路希望を実現させる。  ※　生徒の基礎学力を向上させることで、１年生・２年生の進級率を上げ、平成31年度には1年生85％2年生95％にし、維持していく。（H30年度1年70.5%・2年92.6%）  ※　進路決定未定者の割合について10%以下を維持していく。（H30年度9.6％）  ※　UD教材の研究。茨田検定においてﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾀｰを利用した解説教材の活用。  ２　より良い人間関係づくりができる学校文化の創出  （１）生徒のｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ能力向上を図ることにより、より良い人間関係づくりができる学校文化を創出する。  ア　教員のｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ指導力を充実する。  イ　生徒のｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ能力の向上を図る。  ウ　教職員ﾋﾟｱﾒﾃﾞｨｴｰｼｮﾝ（以下「ＰＭ」）研修を実施し、ＰＭの理解促進及び普及を図る。  エ　ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝｺｰｽの内容をより充実させ、ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ能力の更なる向上をめざす。  オ　英語によるｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ・ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ能力の向上を図る。（International Day ,ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ を意識した英語授業）  カ　面接指導等の進路指導を通してｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ能力の向上を図る。  キ　活気ある学校づくりの一つとして部活動の活性化をめざす。  ク　障がい者に対する理解があり、思いやりがある人を育てる。  ※　作成した「ＰＭ」のテキストを、校内で活用する。他校、外部機関からの見学を積極的に受け入れる。  ※　志学や道徳教育との関連性を重視した独自のｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ教育を構築する。  ※　学校教育自己診断にｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ能力に関する項目を入れ、80％以上の生徒がｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ能力の向上を実感できる学校にする。（H30:64.4％）  ３　地域連携の推進（地域の人と楽しむ学校）  （１）地域連携を通した生徒の成長  　　　　ア　地域の活動に参加する。  ※　地域の活動への参加回数を維持する。（H30年度11回）  　　　　イ　地域の人々を学校に招聘する。  ※　体育祭や文化祭、茨田高校フェスティバル（地域交流イベント）を活用して地域の人々を学校やイベント会場に招き、交流を持つ。  ※　中学の部活動を招いて実施する「茨田カップ」の開催。  （２）広報活動の充実  　　　　ア　HPの充実  ※HPを1週間に1回の頻度で更新する。  イ　学校説明会の充実  ４　教員の資質の向上  　　上記中期目標１～３を実践し教科専門性が高く、生徒に寄り添い課題を解決できる教員を育てる。  　　　　※学校教育自己診断「教員の指示に納得ができる」の項目で肯定的な回答80％をめざす。  　　　　※授業ｱﾝｹｰﾄで「授業を受けて知識技能が身についた」の項目で平均3.5ﾎﾟｲﾝﾄ以上をめざす。  　　　　※ICTを活用し教材の共有をはかり、長時間勤務解消につなげる。月80時間以上の超過勤務の解消をめざす。 |

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

|  |  |
| --- | --- |
| 学校教育自己診断の結果と分析［平成　年　月実施分］ | 学校運営協議会からの意見 |
|  |  |

３　本年度の取組内容及び自己評価

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 中期的  目標 | 今年度の重点目標 | 具体的な取組計画・内容 | 評価指標 | 自己評価 |
| １　学力の向上 | （１）『UD授業・楽しい・規律ある授業』を実現するための教員の授業力向上  ア　本校勤務年数が少ない教員へのOJTの実施  イ　研修・他校公開授業への参加  研究授業の充実  ウ　ICTを活用した授業改善と業務軽減とﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾀｰの積極的活用  （２）生徒の学習習慣確立を通した学習意欲の向上  ア　生徒が放課後に校内で勉強できる場（自習室・図書室）を整備したうえで、教員が生徒を個別指導できる体制をつくる。  イ　生徒の読書習慣を確立する。  ウ　生徒の遅刻を減らす。  エ　ICTを活用し成績不振による留年を防ぐ  （３）生徒個々の進路目標に合った学力を育成する。  ア　義務教育段階の学力習得を目的とした「茨田検定（振返り学習）」「一般教養講座」、習熟度別授業、補習などの内容を充実させる。  イ　発展・応用的学力の習得をめざす授業内容の充実と、放課後等の講習を積極的に実施する。  ウ　生徒の進路に応じた講座を充実させ、進路希望を実現する。  エ　国際問題を絡めた英語教育 | （１）  ア・担当首席を中心に管理職や分掌長等が講師となって、若手育成に当っている研修組織（青葉会）の内容の充実。  　・本校勤務年数が少ない教員に対して、年度当初に授業規律の確立を重点的に指導する。  　・年度当初に、ﾕﾆﾊﾞｰｻﾙﾃﾞｻﾞｲﾝの視点に即した教室整備を行う。  　・生徒の家庭環境を知り、それに合わせた指導  を行えるようにする。  　・生徒が納得感を持つ生徒指導を行うため、毎週の学年会、生指部会で指導状況の確認、点検を行う。  イ・各教科2年間に1回研究授業実施。他校や外部での授業力向上に関連する研修、公開授業、に積極的に参加し、その成果を校内で共有。  ・UD授業の取組みを実施することで、本校生徒の理解がより深まる授業を行う。  ウ・校内の視聴覚機器、大型プリンター等を活用して、UD授業の視点に立った教材作成を行う。  ・生徒による学校教育自己診断の結果を検証して授業力向上へ結びつける方策を確立する。    （２）  ア・考査前、考査中の自習室と図書室への教員常駐。生徒に対する個別学習指導にあたる。  　・定期考査前の学習や長期休業期間後の課題学習など、特定の時期に応じた生徒の個別学習を充実させるように、各教科が教材準備や指導を行う。  ・授業開始後に「振り返り」「漢字」「計算」などの10分間の小テストを実施。  全教科開始後5分の規律指導を実施。  イ・毎日の終礼、総合的な学習の時間、ＬＨＲ、基礎教養などの時間を利用して、年間を通した「10分間読書」活動を企画実施する  ウ・遅刻の回数に応じて、担任、学年主任、首席、教頭、校長による説諭を行う。  　・遅刻の回数に応じて、学年による放課後清掃指導等を行う。  エ・年度末成績不振(欠席30日以下の生徒)による留年を0にする。  （３）  ア・「茨田検定」のICT化。  ・成績不振者への指名補習、個別指導を充実させる。  イ・2･3年生で学業成績に基づくクラス編成を実施し、成績の推移を分析しながら、各授業で生徒の学力向上をはかる。  ・外部機関の資格試験（漢検・英検・Ｐ検(パソコン検定・数検)等）を活用して、生徒の学力向上とキャリアアップを図る。  　・発展・応用的学力の習得をめざす講習を、1年生から実施する。  ウ・進学希望者に対して、進路希望に応じた多様な講習を１年生から実施する。  ・就職希望者に対して、インターンシップや試験対策講座を2年生から実施する。  　・進路ガイダンスの充実  　　　急な進路変更に対する対応  　　　卒業後の離職、退学者の防ぐ  エ・実用英会話の授業において諸外国調べ、プレセンテーションの実施。 | （１）授業ｱﾝｹｰﾄ「授業内容に興味関心を持つことができた」の項目が3.5ﾎﾟｲﾝﾄ以上。H30：3.35  ア・青葉会の研修を年間で12回実施する。  　・年度当初の授業見学において、次の2点を重点的に指導する。  《授業規律》  生徒の机上の整理整頓  《ﾕﾆﾊﾞｰｻﾙﾃﾞｻﾞｲﾝ化》  教室掲示物・板書状況  ・毎週学年会を開催し点検事項の確認を行う。  　・青葉会と週一回の学年会開催で情報共有  　・「学校生活において先生の指導は納得ができる」80％以上をめざす。（H30：61％）  イ・各教科研究授業の実施とその後の研究協議を実施。  　・年度末に授業力向上研修を実施し校内での共有化を図る。  ウ・生徒による学校教育自己診断において「授業が分かりやすい」という項目に対する肯定的な割合を80％以上にする。H30（65%）  （２）  ア・自習室を考査前、考査中には毎日開室。  　・学校教育自己診断の「日常的に放課後学校で学習したり、家庭で学習している」の項目に肯定的な答えを出す生徒の割合を60％にする。  　　H30(42%)  　・英数国で小テスト実施。  イ・「10分間読書」を年間で10日実施する。H30：10日  ウ・年間遅刻総数を5000人以下に減少させる。  　H30 (5664人)  エ・全教員がﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾀｰを使用した授業ができるようになる。  　・成績不振留年（H30）  1年9、2年2、3年0名  （３）  ア・茨田検定で解説・解答にﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾀｰを活用  ・各中間考査後と夏季・冬  季休業期間中に、座学教  科で成績不振者への指名  補習を実施する。  ・１年生85%、２年生95%  の進級率をめざす。  　（H30：1年70.5%  2年92.6%)  イ・1・2年生全員が英検・漢検いずれかを受験するよう指導する。H30 全員受検  ・各種外部機関の資格試験  合格者を増加させる。  （H30年度の総合格者  264名）  ウ・進学、就職希望者対象  の各種講習について、  開講講座数確保  （H30：開講講座数17講座　280名）  ・進路決定未定者の割合を  10％以下にする。  （H30年度14名9.2％）  ・進路HRを1年7回、2年5回、3年5回＋基礎教養（毎週）を実施  エ・公開授業またはｽﾋﾟｰﾁ大会の実施。 |  |
| ２　より良い人間関係づくりができる学校文化の創出 | （１）生徒のｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ能力向上を図ることにより、より良い人間関係づくりができる学校文化を創出する。  ア　教員のｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ指導力を充実する。  イ　生徒のｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ能力の向上を図る。  ウ　教職員ＰＭ研修を実施し、ＰＭの理解促進、普及を図る。  エ　『ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝコース』の学校設定科目「ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ総合」「ＰＭⅠ」「ＰＭⅡ」の内容をより充実させる。  オ Inteternational Day・授業でのﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝを実施し、英語によるｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ能力の向上を図る。  　カ　進路指導を通してｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ能力の向上を図る。  キ　活気ある学校づくりの一つとして部活動の活性化をめざす。  ク　合理的配慮ができる人を育てる。 | （１）  ア・定例のｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ委員会とｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝｺｰｽ担当者会議で、生徒のｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ能力向上の取組強化対策を立案する。  ・教員それぞれが、生徒のｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ能力向上のための取組を行い、その内容と効果を集約して全教員で共有するとともに、特に優れた取組については本人によるプレゼンを行い、全体化することで、教員のｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ指導力を向上する。  ・ＰＭの技法を応用し、自分を大切にし、他者を理解することをベースとした生徒指導を展開する。  イ・校内の「あいさつ通り」を活用し、集会時、授業時でのあいさつ指導とともに全校的な指導を徹底した上で、その効果をアンケートで確認する。  ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝをテーマとしたホームルーム（「ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝＨＲ」）を実施し、志学と連携したｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ教育を充実する。  ・校外のﾌﾟﾚｾﾞﾝｲﾍﾞﾝﾄへの参加  　・月1回の朝礼で校歌斉唱  ウ・「ＰＭ」のテキストを活用し、教職員ＰＭ研修を校内で実施し、校外にも普及を図る。  エ・「ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ総合」で落語家などの著名人や大学教授等を招き、充実したｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ教育を継続する。  ・「ＰＭⅠ」「ＰＭⅡ」の授業内容を整理し、教材及び指導方法を確立、継承する。  ・「ＰＭⅠ」「ＰＭⅡ」履修生徒の中からＮＰＯ法人シヴィルプロネット関西によるメディエーター認定試験の合格者を出す。  オ・International Dayの実施。  ・１年生英語会話、3年実用英会話の授業でのﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝの取り組み  カ・生徒が職場訪問し、職場の人とｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝを取る機会を増やす。  キ・体験入部等年度当初の新入部員獲得に向けた行事の充実。  ・地域連携を活用した部活動の活性化。  ・文化部の発表の場として、近隣中学や住民を招待したイベント「茨田高校ﾌｪｽﾃｨﾊﾞﾙ」の開催。  ・「部活動の日」（毎週金曜日／生徒、教員共に、部活動への参加を促す取組み）のさらなる充実。  ク　高齢者施設・障がい者との交流の場の設定、障がい者差別解消法の趣旨を理解させる。 | （１）  ア・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ委員会を年20回以上、ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ担当者会議を年5回（年度初め、各学期、年度終わり）開催。H30：25回・5回  ・職員会議で教員による「ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ能力向上取組プレゼン」を年1回実施。H30(1回)  イ・25項目のｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ能力アンケートを年2回実施し、20項目以上で肯定的な回答の数値80％以上。  H30(20項目)  　・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝＨＲを年3回実施。  　・人権文化交流会においての発表  ウ・教職員ＰＭ研修を校内で年1回実施。（アの内容を含む）H29(1回)  　　積極的な学校見学受入  エ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝコース選択生徒アンケートで「コースで学んで話し方や行動が変わった」と答えた生徒の割合を80％以上  （H30年度94.9％）  ・「ＰＭⅠ」「ＰＭⅡ」を担当できる教員を養成し、2名以上確保。（H29年度2名確保）  ・メディエーター認定証取得者を増やす。  （H30：７名）  オ・International Day の実施。（H30年11月実施）  ・各学年授業でのﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ。  カ・学校斡旋就職希望生徒全員に応募前職場見学の実施（H30：138　　　社　302名）、ｼﾞｭﾆｱｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ実施（H30：11　社　18　名）  キ・入部率を50％にする。  　　　H30:27%  　・茨田高校ﾌｪｽﾃｨﾊﾞﾙを年に1回開催（H30はH31年2月に実施）  ク・年1回の交流実施  　・生活福祉の授業での施設交流（H30：５回） |  |
| ３　地域連携の推進 | （１）地域連携を通して生徒の成長を促す  ア　地域活動に参加する。  イ　地域の人々を学校に招聘する。    （２）広報活動の充実  ア　HPの充実  イ　学校説明会充実 | １）  ア　地域活動への参加回数を維持する。  イ・体育祭や文化祭、茨田高校ﾌｪｽﾃｨﾊﾞﾙを活用して地域の人々を学校や行事に招き、交流を持つ。  ・中学の部活動を招いて実施する「茨田カップ」  の回数を増加させる。（H30年度2回）  ・今年度もPTA文化教室に地域の人の参加枠を設ける。  （２）  ア　HPを1週間に1回更新する。  　　災害時の対応、行事、授業参観案内をプリント配布と共にHPに掲載し保護者にも周知。  イ　本校での説明会と共に地域や中学校での学校説明会へ積極的に参加する。  　　中学校訪問、学校案内送付の充実 | １）  ア　地域活動への参加回数　H30（11回）  イ・近隣住民に広報  ・年間3回以上の開催。  H30(2回)  　・年1回の実施。  H30（１回）  （２）  ア・1週間に1回の更新を維持する。（H30年週1回更新）  イ・本校での説明会以外に地域や中学での説明会参加回数を維持。申し出があれば断らない。    6月に全教員で近隣中学校訪問 |  |
| ４　教員の資質の向上 | 中期目標1～3を実践し教科専門性が高く、生徒に寄り添い問題を解決できる教員を育てる。 | ・中期目標1～3の実践。  ・各教員が外部研修等の内容伝達を職員会議で行い、全教員が共有できるようにする。  ・ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾀｰ活用マニュアルの充実をめざす。 | ・学校教育自己診断「教員の指示に納得ができる」の項目で肯定的な回答80％をめざす。  ・授業ｱﾝｹｰﾄで「授業を受けて知識技能が身についた」の項目で平均3.5ﾎﾟｲﾝﾄ以上をめざす。  ・ICTを活用し教材の共有をはかり、長時間勤務解消につなげる。月80時間以上の超過勤務の解消をめざす。 |  |